

マテバシイ (ブナ科マバシイ属)

南ゲートから入園し管理棟前の道路をゆきましよう。左手は姿見の池、右手には20cm近くある大きな厚い葉をつけたマテバシイが並んでいます。まだ青いけれど、大きなドングリも実っていますよ。

古代から九州に育つ常緑高木。海沿いに関東地方まで見られるので、海流に種子が運ばれたのかと思えばさにあらず、なかなか有用なので人の手によって運ばれたと言われています。

到津では11月に完熟する実は炒ったり茹でて食料となり、材は近年まで薪炭にされました。

花は6月に咲きます。雌雄同株、新枝の先端に雌花、雄花はその下方につき特有の香りを振りまきます。今年の花は受粉するとドングリ小僧として小さいまま冬を越し、翌年初夏頃やっとカラ(殻斗)から顔を出し二年がかりで熟すのです。

大きな実のお尻に穴をあけ、楊枝等を刺して独楽遊びをよくしたのですが、もっと年配の方の話では、浅い窪みのあるお尻を長い時間をかけて砥石ですり破り、釘等で果肉をほじくり出して作ったそうです。親指と人差指でひねり飛ばして回し、相手はそれを目掛けて飛ばしうまく当てて相手を倒しこちらが回っていれば見事勝利！ケンカ独楽。

なんとも懐かしいマテバシイ。

市内にも野性の林が残っていますが、宗像・岡垣あたりには、鬱蒼とした見事な自然林が続いています。

文：花咲くおばさん



花暦 長月

新ふれあい動物園オープン

～ 一部だけど！！ ～

7月のおわりに、新ふれあい動物園の一部が開園しました。

ヤギもロバも飼育員の手によって一頭一頭引かれ、新しいヤギ・ロバ舎への引っ越しが完了。場所は北ゲートを入ってすぐのサル山の前です。

今まで通りヤギにエサをあげることができ、8月1日からはロバの乗馬も開始されました。今までのふれあい動物園と違うところは、エサをあげるだけだったヤギに、間近でさわれる“ふれあい広場”ができたことです。10時～15時の間であれば、ふれあい広場で待っているヤギたちと会って、さわることができます。中に入った子供たちは喜んでしゃいんだり、驚いて泣いたり様々な反応があります。また、大人の方も間近でヤギが見られ、さわれるとあり楽しんでもらっているようで、なかなかの人気スポットになっているようです。

ロバに乗ったり、ヤギにエサをあげたり、さわったりと新しくなったふれあい動物園をよろしくお願いします。



飼育展示係 増田 淳一郎